

事業所名 グループホーム はなの家

作成日 : 平成 年 月 日

評価結果

市町村提出日 : 平成 年 月 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	No.4	勤務の都合などにより、運営推進会議にはA棟の管理者だけが出席しており、両棟の利用者の状況など伝えきれないでいる。	運営推進会議には、A・B棟両方の管理者が必ず出席する。	○A・B棟両方の管理者が運営推進会議に出席できるように日程調整をきちんとしておく。 ○棟内の状況報告や話し合いが円滑に行えるように、職員一同で話し合っまとめておく。	2 か月
2	No.10	利用者様・家族様の要望等を汲み上げる機会が未成熟な部分もあるため、それらを運営に反映しきれない面がある。	利用者様と家族様の意向に最大限に沿ったサービスを提供する。	2月に予定している家族会での個別懇談等による要望の汲み上げと、アンケート手法を用いた意向集約を図り、その結果をスタッフミーティングで全スタッフにフィードバックを行い対策を作成する。同時に幹部会で代表者に報告し、運営方針を決定する	3 か月
3	No.26	必要な関係者との話し合いが充分とは言えず、計画作成担当者の意向が強く反映された介護計画・モニタリングになる傾向が見られる。	各スタッフが介護計画・モニタリングに積極的に係わり、基礎知識を学び技術の研鑽に努める。	各スタッフが利用者様の担当として介護計画とモニタリングのたたき台を作成し、3ヶ月毎の期間終了時のミーティングで発表し、他のスタッフより評価を受ける。計画作成担当者は、最終意向集約者に徹する。	6 か月
4	No.29	地域資源の有効活用はできていない。	地域資源を把握して、活用する。	○地域の楽しめる施設(足湯など)を利用したり、ボランティアの方やサークルの方に来て頂いたりする機会を作る。 ○事前に安全面などチェックしながら計画的に実施していく。	6 か月
5	No.34	応急手当や初期対応の訓練は取り組めていない。	全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を受けられるようにする。	○2ヶ月に1回訪問看護師の協力を得て、利用者の急変や事故発生時に備えての研修を実施する。 ○最寄の消防署の救命講習受講をすすめる。	12 か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。